審 査 の 結 果 の 要 旨

氏　　名　シャノン　スワンモントリー

シャノン　スワンモントリー君の博士課程学位論文“Impact of Rural-Urban Migration in Thailand: An Economic Study on the Aging of Rice Farmers”（邦題：タイにおける農村から都市への移民の影響：米農家の高齢化局面での経済学的研究）は、タイ国において、農村と都市における人口構造変化を、特に農家人口に注目しながら明らかにし、さらに、その構造変化が米生産に与える影響を定量的に評価したものである。

同論文の第一章は、問題意識と背景である。都市化とそれに伴う労働力移動は、農業や社会への影響が繰り返し議論されてきた。ただし、中進国に属する国と地域の研究は限られており、タイの農業人口の高齢化問題を調査する研究はほとんど無かった。同論文は、その経済学的な影響評価を独自に開発した人口移動のシミュレーション結果と併せて示した独自性が高いものである。

第二章は、先行研究のレビューである。タイの農村における労働力減少の深刻化や、機械化の必要性は、特定地域のインタビュー調査から指摘されていたものの、マクロ的な視点での人口移動の分析や、定量的な評価は限られていたことが示されている。

第三章は、タイにおける省をまたいだ都市（バンコク）への人口流入の量や人口変化について、より正確なシミュレーションを試みたものである。バンコクでの非常に高い出生率の要因に、バンコクで出産して再び自らの出身省に戻ることがある点を指摘し、それらを加味した人口動態を 2030 年時点までのレンジで明らかにした。この結果、特に将来の若年層の割合は、既往の統計とは大きく異なり、バンコクでも大きく減少しうることが示されている。

第四章は、省を跨いだ人口移動とそれによる農業従事者の高齢化の関係を検証したものである。具体的には 1980 年から 2010 年を対象とし、五年毎の省間の人口移動と農業人口の年齢構成の関係性を見ている。分析の結果、都市への移住者の多くは若年層であり、労働市場において彼らは、農村の農業部門を去り、都市部での工業などの近代的な部門に流入することが示されている。農村部から都市部への移住によって、農業従事者の割合の減少と、高齢の農業従事者の比率の増加が生じることが指摘されている。

第五章は、タイの農業従事者人口の 2040 年までの予測である。ここでは、第四章での人

口構造の分析結果を用いて、さらに将来の年齢別・性別の農業人口をシミュレーションしている。従来のコーホート要因法に加え、若年層の就業開始率と、農業部門から非農業部門への労働の移動率という、二つの要素を導入した点に新規性がある。シミュレーションの結果、農業労働者の年齢構成の将来予測の結果、農業労働者の高齢化率は2010年の16.6%から2040年に29.8%となる可能性が示された。

第六章は、農業の高齢化がコメの生産性に与える影響を、コブ＝ダグラス型生産関数に高齢化の変数を変数として追加することで検証したものである。この分析で得られた高齢化の効果に基づき、第五章と同様に、2040年における高齢化の農業生産への直接的な影響を推定している。分析の結果、タイでの高齢化によって、一人当たりのコメ生産量が3618 kg（2013年水準）から2348 kg（2040年水準シミュレーション）に減少しうることが示された。その一方で、機械化の指標は生産量を有意に押し上げており、労働生産性の低下を補うために、効率的な機械化が有効であることもまた示されている。

第七章は、同論文の総括である。農業従事者の高齢化が指摘されるタイにおいて、既往の手法を洗練させ、より正確に2040年の農業従事者の人口構造をシミュレーションし、さらにその人口構造の変化が米農業に与える影響を定量的に示した。また、高齢化に伴う将来的な生産量の低下に対して、機械化率を向上させることで改善可能であることを示している。

以上の研究内容は、十分な学術上の新規性、及び、妥当性・有用性が確認できる。また、現在だけでなく、2040年におけるタイ国全体の人口構造変化と農業生産低下の可能性、さらにその処方箋を提示しており、相応の社会的意義を有すものであると判断される。研究成果は、農学と社会の進歩に対し少なくない寄与を与えるものであり、審査委員一同は本論文が博士（農学）の学位論文として価値あるものと認めた。

見本

審　査　の　結　果　の　要　旨

氏　　名　　本郷　太郎

↑

(※履歴書の記載と同じにしてください。)

　□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
　これらの研究成果は、学術上応用上寄与するところが少なくない。よって、審査委員一同は本論文が博士(農学)の学位論文として価値あるものと認めた。

※「文書ファイル(Word 等で作成したもの)」及び「PDF ファイル」を提出してください。